



2024年5月15日

各 位

G M B 株 式 会 社  
代表取締役社長 松岡祐吉  
(コード番号: 7214 東証スタンダード)  
問合せ先 専務取締役 善田篤志  
(TEL 0745-44-1911)

## 中期経営計画の策定に関するお知らせ

この度、当社では中期経営計画（2025年3月期～2027年3月期）を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

### ●中期経営計画（2025年3月期～2027年3月期）の骨子

#### 1. 環境認識

当社グループの属する自動車業界は「CASE革命」と呼ばれる自動運転や電動化といった新しい領域での技術革新が進み、各国の環境規制の高まりもあって、完成車メーカーは電気自動車やハイブリッド車などの環境に配慮した自動車の比率を高めながら、進出した地域での現地生産を拡大しております。また、補修用部品におきましては、世界の自動車保有台数が継続的に増加し市場規模も拡大しておりますが、中国を中心とした新興国メーカーとの競争が激化しております。

#### 2. 基本方針

「地球の成功が、私たちの未来」をスローガンに、自動車部品を通じて、環境にやさしく、安心・安全に、より長く、車社会に貢献していくため、新車用・補修用の両輪でグローバルに事業の拡大を図り、研究開発と設備投資によって、新製品開発と品質・生産体制を強化してまいります。

#### 3. 数値目標

|            | 2024年3月期 実績  | 2027年3月期 目標    |
|------------|--------------|----------------|
| 売上高        | 962億円 (100%) | 1,300億円 (100%) |
| 営業利益 (利益率) | 16億円 (1.7%)  | 50億円 (3.8%)    |
| 純利益 (利益率)  | 4億円 (0.4%)   | 18億円 (1.4%)    |
| ROE        | 1.8%         | 7.0%以上         |

#### 4. 重点戦略

##### ① 電動化対応

電動ウォーターポンプや統合熱管理モジュールなどの冷却系部品を中心に電動化に対応した製品の研究開発と生産体制の強化をすすめます。

##### ② 顧客のグローバル戦略対応

既存のルーマニア工場における電動ウォーターポンプの現地生産開始と、米国およびインドの新工場の立ち上げによって、顧客の現地納入ニーズに対応します。

##### ③ 補修用部品の拡販

既存製品は大型車や建機などにカバーする範囲を広げ、更なる新規アイテムを継続的に市場投入することでブランド力を活かした販売拡大を図ります。

##### ④ OEM外注化対応

ユニバーサルジョイントの上位Tierの部品メーカーが構成部品を外注化する受け皿となることで欧米を中心に販売を強化します。

#### 5. 株主還元

配当方針につきまして、従来の定量的な目安のない安定配当の方針から、「将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、年間40円を最低配当金とし、2026年度までに連結配当性向25%を目標とする配当を実施する。」と明確化し、株主還元を強化してまいります。

内容の詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

以 上

# GMB株式会社

## 中期経営計画

### FY2024 ~ FY2026

2024年5月15日



1. 当社の事業概要
  2. 当社のこれまでの歩み
  3. 環境認識と当社の取り組み
  4. 中期経営計画の概要
  5. 重点戦略
  6. セグメント別売上高・営業利益計画
  7. キャピタルアロケーション
  8. 株主還元
-

# 1. 当社の事業概要

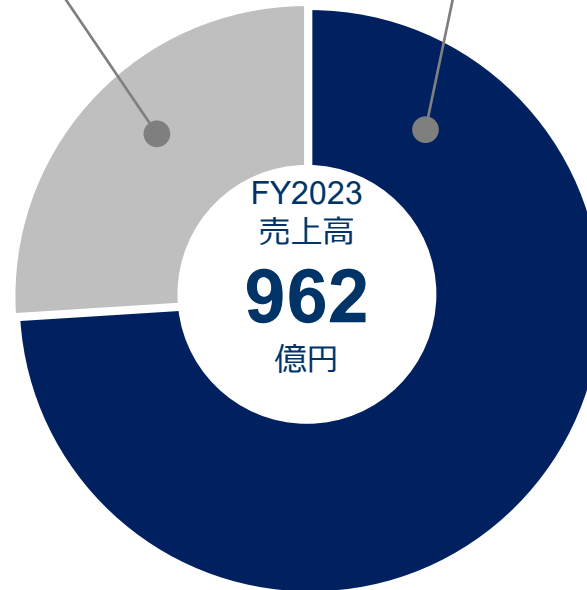
## 補修市場向け

- 世界中で走っている車の修理・交換用専用の部品をメーカー、モデル、年式に関係なく幅広く品揃え
- 国内商社や海外の自動車部品輸入業者を通じ世界各地へ供給
- 長年にわたり海外市場で浸透したブランドカ



## 新車市場向け

- 精密な金属加工技術と電動化にも対応した冷却システム技術を基盤
- 完成車メーカー、自動車部品メーカーの多様なニーズに応え、万全の品質保証体制で部品を供給
- 韓国メーカーがメイン

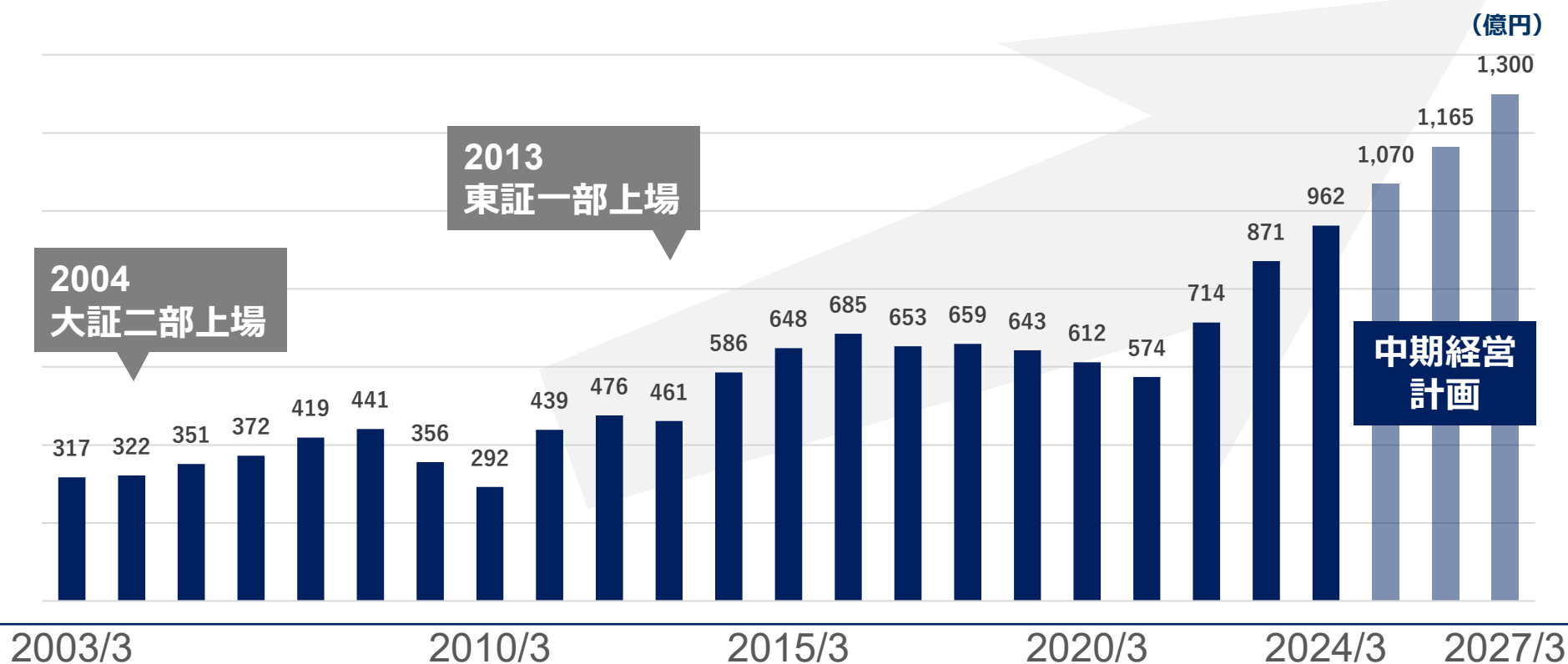


完成車メーカーの系列には属さず、独立資本系企業として発展

## 2. 当社のこれまでの歩み



連結売上高推移



# 3. 環境認識と当社の取り組み

自動車業界の変化をビジネスチャンスとして捉え、更なる業績の拡大を図ります。

## 自動車業界の変化

- CASE変革
- 気候変動やESGに関連する対応の活性化
- 不安定な国際情勢に備えた、グローバル生産・調達体制の見直し
- 世界の自動車保有台数の拡大継続



## 当社の取り組み

- 電動化対応製品の開発及び販売強化
- 電動化・自動化の影響が少ない製品の開発及び販売強化
- 完成車メーカー各社の現地調達ニーズ等グローバル戦略対応
- 補修用部品の販売強化
- グループ連携強化によるQCDS向上

# 4. 中期経営計画の概要

## 本中期経営計画の位置づけ

創業からの80年間  
1943 ~ 2023

中期経営計画  
2024 ~ 2026

100年企業へ  
~ 2043

- 金属の精密加工業を祖業とし、ベアリング、ユニバーサルジョイント、ウォーターポンプなどの自動車部品が主力
- 自動車産業の発展とともにグローバル展開
- 完成車メーカーの系列系企業と異なり、独立資本系企業として発展
- 業界の大変革期対応と競争激化による収益性が課題
- 次世代成長分野で活躍する人財を育成するために積極的な人的資本投資推進
- 組織機動力を高め、グループ一丸となり、“CASE”革命の荒波に対峙
- 社内風土と体質を果敢に見直し、組織と事業の「再生」を進め、一層の効率化と次の跳躍に備えた基礎固めを実行
- 新車・補修両市場向けに新製品開発とグローバル展開を加速
- 「地球の成功が、私たちの未来」をスローガンに部品を通じて、環境にやさしく、安心・安全に、より長く、モビリティ社会に貢献
- 本中計達成により、「再生」を果たした人財、収益基盤、製品開発力で成長スピードを加速
- 創業100周年となる2043年には世界の自動車部品業界での確固たる地位を目指す



## 4. 中期経営計画の概要

### 基本方針

- ・新車用・補修用の両輪でグローバルに事業の拡大を図ります
- ・研究開発と設備投資によって、新製品開発と品質・生産体制を強化します

### 数値目標

|        |      |              |     |
|--------|------|--------------|-----|
| FY2026 | 売上高  | <b>1,300</b> | 億円  |
|        | 営業利益 | <b>50</b>    | 億円  |
|        | ROE  | <b>7.0</b>   | %以上 |

# 4. 中期経営計画の概要

## 主要指標の推移

(億円)

|       | FY2022 | FY2023 | FY2024 | FY2025 | FY2026 |   |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|---|
| 売上高   | 871    | 962    | 1,070  | 1,165  | 1,300  |   |
| 営業利益  | 21     | 16     | 37     | 43     | 50     |   |
| (利益率) | (2.5%) | (1.7%) | (3.5%) | (3.7%) | (3.8%) |   |
| 純利益   | 12.1   | 4.0    | 10.0   | 13.5   | 18.0   |   |
| (利益率) | (1.4%) | (0.4%) | (0.9%) | (1.2%) | (1.4%) |   |
| 設備投資額 | 38.9   | 47.1   | 62.5   | 40.0   | 40.0   |   |
| ROE   | 5.6%   | 1.8%   |        |        | 7.0%   |   |
| 換算レート | USD    | 131.45 | 140.55 | 145.00 | 〃      | 〃 |
|       | KRW    | 0.1017 | 0.1076 | 0.1100 | 〃      | 〃 |

① 電動化対応

② 顧客のグローバル戦略対応

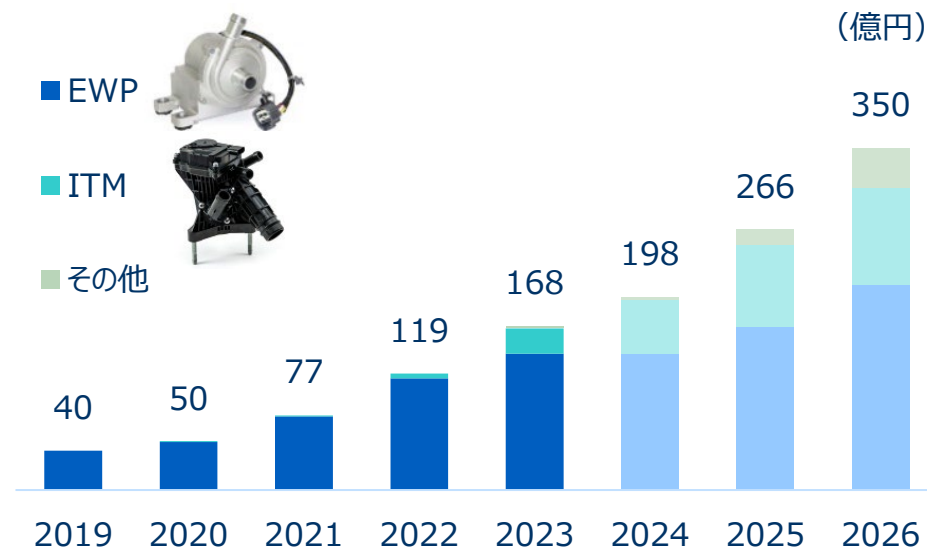
③ 補修用部品の拡販

④ OEM外注化対応

# 5. 重点戦略① 電動化対応

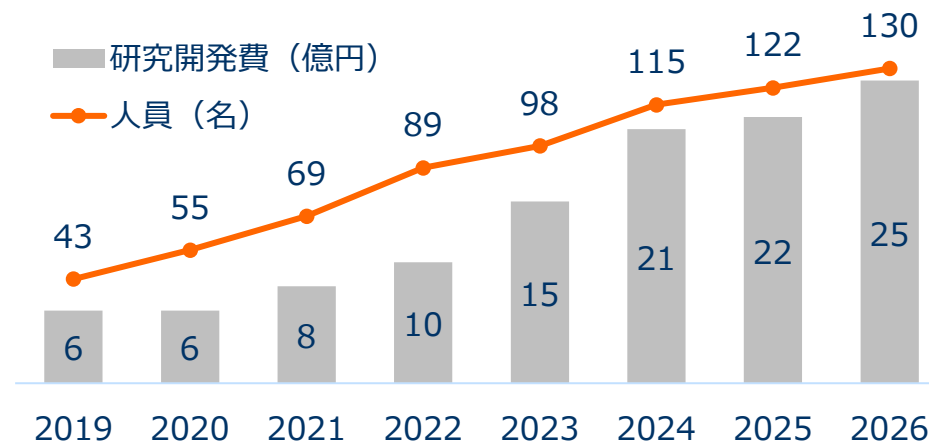
## 販売計画

- ・電動ウォーターポンプ(EWP)は主力アイテムに成長、更なる顧客開拓とグローバル生産へ
- ・統合熱管理モジュール(ITM)の本格量産化
- ・電動オイルポンプなど新製品の立ち上げ



## R&D強化

- ・技術研究所（韓国）の専用棟を増設し、人員も5年間で5割増へ
- ・2022年より韓国政府及び地方自治体から約12億円の資金援助を獲得



# 5. 重点戦略② 顧客のグローバル戦略対応



## ルーマニア工場

- 設立10年目
- 顧客の電動車対応に応じて新たにEWPの現地生産・納入開始
- 2026年売上目標 50億円 (23年比+22億円)



## 米国工場

- 2023年設立
- 顧客の現地納入ニーズに対応し、新たな顧客も開拓
- 2026年売上目標 40億円

## インド工場

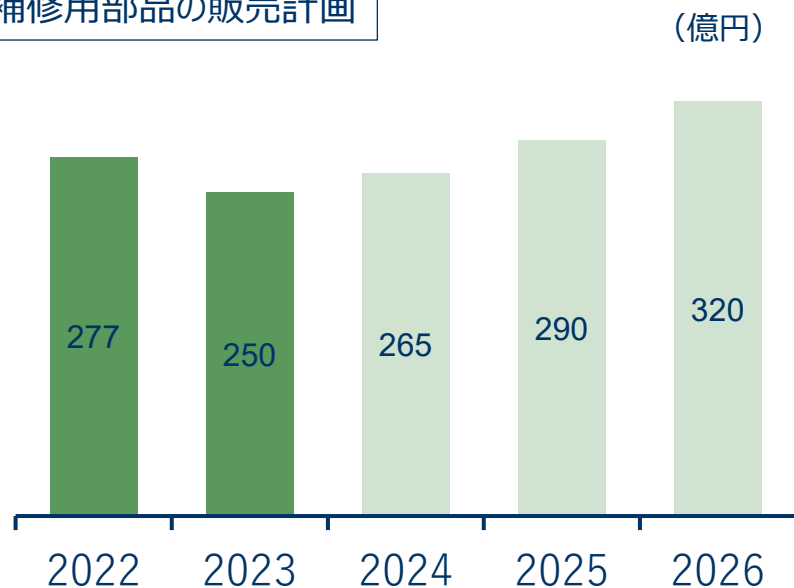
- 2024年設立2025年より本格稼働開始
- 顧客の現地納入ニーズに対応
- 2026年売上目標 20億円

# 5. 重点戦略③ 補修用部品の拡販

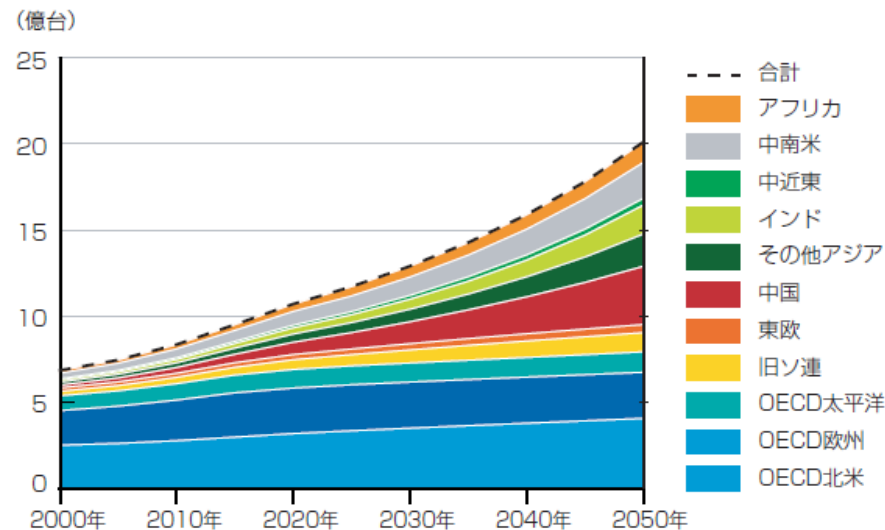
## ブランド力を活かし取扱品目を拡充

- ・自動車の電動化が進展する中でも、新興国を中心にエンジン車も増加し、世界の自動車保有台数は2050年に20億台と約30年間で倍増が予想されるなど、補修用部品の市場規模は拡大
- ・既存製品はカバーする範囲を大型車、建機などに広げるとともに、需要のあるアイテム×QCD競争力のある協力工場開拓で取扱品目を強化

補修用部品の販売計画



自動車保有台数予測

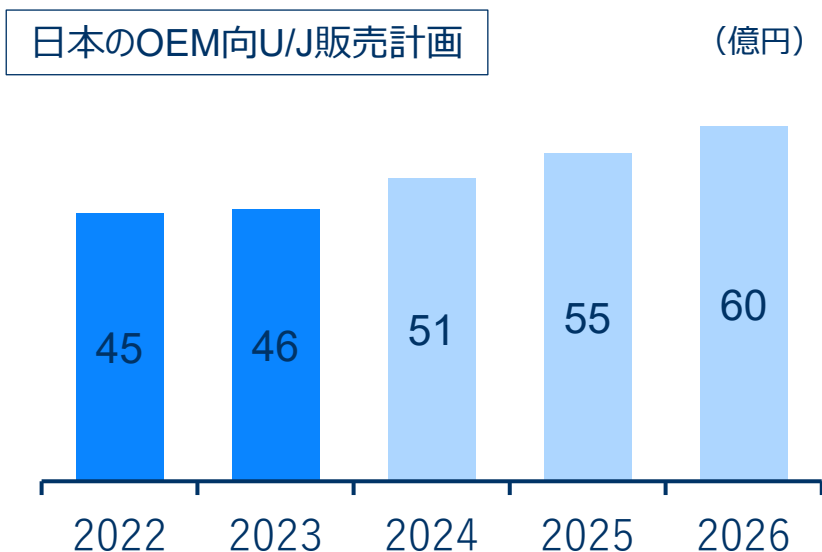


出典：持続可能な発展のための世界経済人会議 持続可能なモビリティ・プロジェクト  
「Mobility 2030: 持続可能な社会を目指すモビリティの挑戦」レポートより

# 5. 重点戦略④ OEM外注化対応

## ユニバーサルジョイントの販売強化

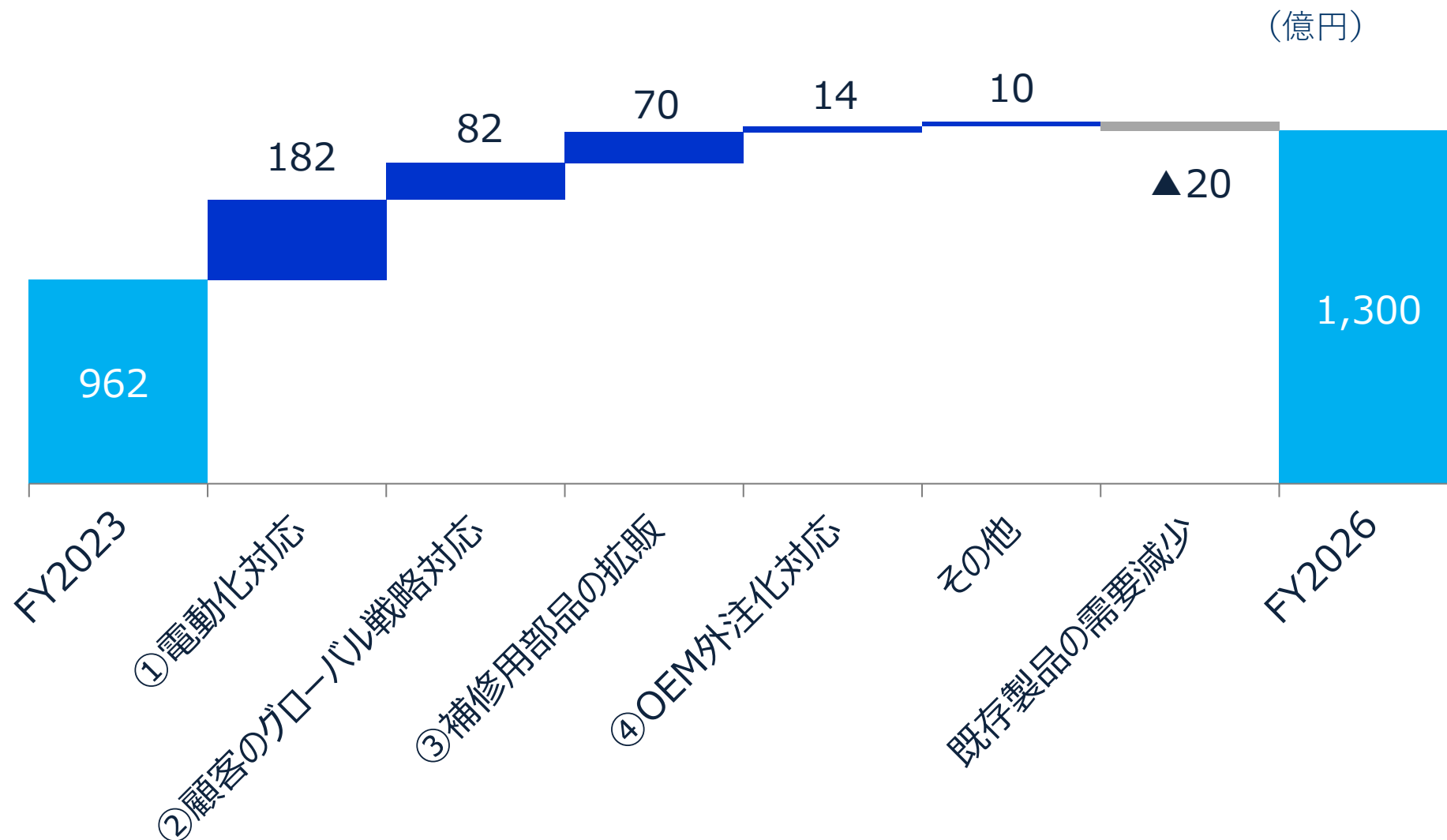
- ・ユニバーサルジョイント(U/J)は、後輪駆動車に使用される駆動部品
- ・農機や大型トラック等、後輪駆動が採用される車両においては電動化が進んでもU/J需要は底堅く推移する見込
- ・上位Tierの部品メーカーが構成部品を外注化する受け皿となり欧米を中心に販売強化



ユニバーサルジョイント



# 5. 重点戦略 売上高増加内訳（3ヶ年累計）

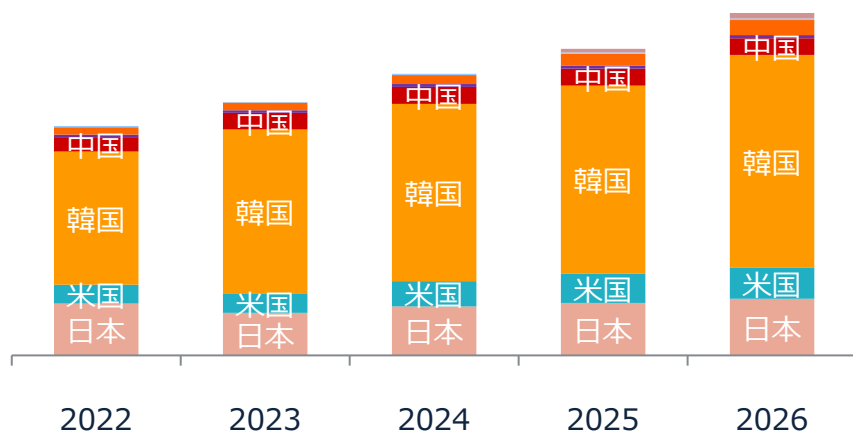




# 6. セグメント別 売上高・営業利益計画

## 売上高

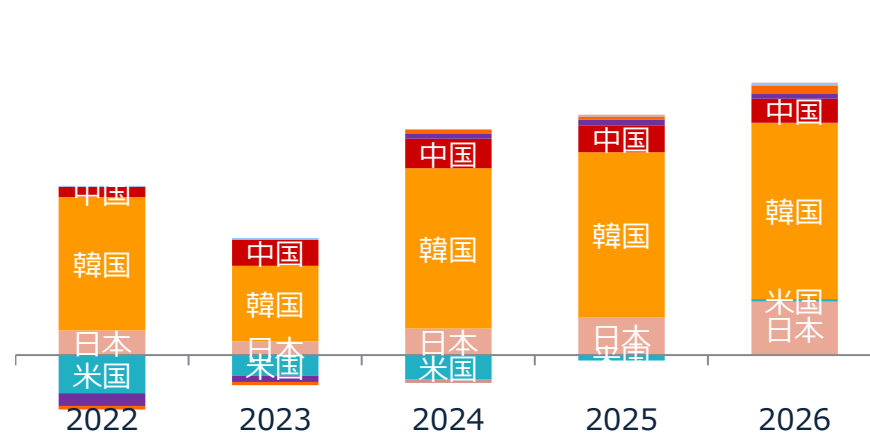
■ インド ■ 豪州 ■ 欧州 ■ タイ ■ 中国 ■ 韓国 ■ 米国 ■ 日本



## 営業利益

(億円)

■ インド ■ 豪州 ■ 欧州 ■ タイ ■ 中国 ■ 韓国 ■ 米国 ■ 日本



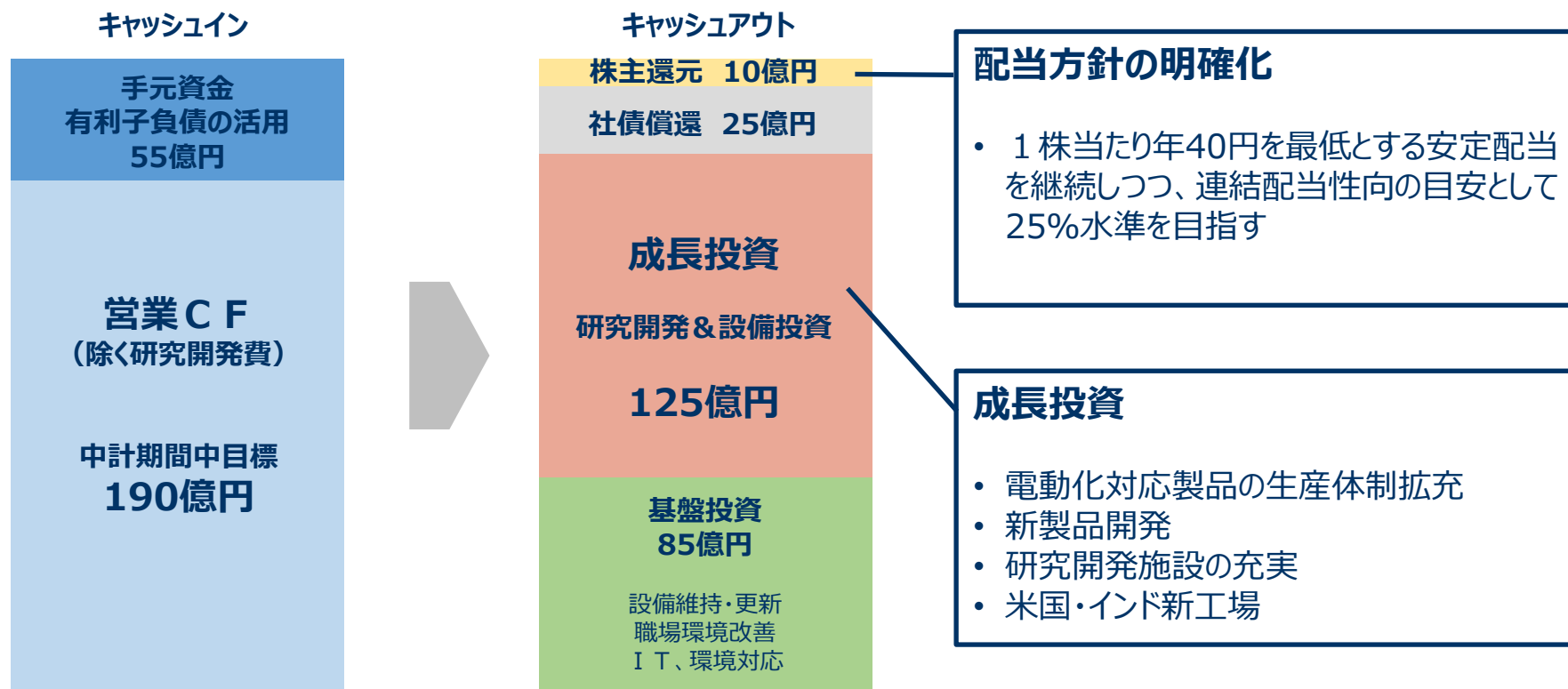
|     | 2022 | 2023 | 2024  | 2025  | 2026  |
|-----|------|------|-------|-------|-------|
| 日本  | 197  | 162  | 186   | 200   | 215   |
| 米国  | 72   | 74   | 96    | 112   | 120   |
| 韓国  | 508  | 625  | 677   | 716   | 810   |
| 中国  | 55   | 63   | 64    | 65    | 64    |
| タイ  | 10   | 10   | 11    | 12    | 12    |
| 欧州  | 28   | 29   | 35    | 45    | 58    |
| 豪州  | 4    | 3    | 4     | 5     | 6     |
| インド | -    | -    | -     | 13    | 20    |
| 調整  | ▲4   | ▲5   | ▲4    | ▲4    | ▲5    |
| 連結  | 871  | 962  | 1,070 | 1,165 | 1,300 |

|     | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 日本  | 4.6  | 2.6  | 5.0  | 7.0  | 10.0 |
| 米国  | ▲7.1 | ▲3.9 | ▲4.5 | ▲1.0 | 0.5  |
| 韓国  | 25.0 | 14.1 | 30.0 | 31.0 | 33.0 |
| 中国  | 1.9  | 4.9  | 5.5  | 5.0  | 4.5  |
| タイ  | ▲2.4 | ▲1.1 | 1.0  | 1.0  | 1.0  |
| 欧州  | ▲0.7 | ▲0.6 | 0.7  | 0.7  | 1.5  |
| 豪州  | 0.2  | 0.3  | 0.0  | 0.1  | 0.3  |
| インド | -    | -    | ▲0.7 | 0.2  | 0.2  |
| 調整  | 0.0  | 0.0  | -    | ▲1.0 | ▲1.0 |
| 連結  | 21.4 | 16.3 | 37.0 | 43.0 | 50.0 |

# 7. キャピタルアロケーション

## 基本方針

- 成長投資に優先配分し、更なる収益・営業CF創出につなげる
- キャッシュコンバージョンサイクルを改善し、更なるROE向上と営業CF増加を図る
- 配当方針を明確にし、株主還元を強化する



# 8. 株主還元

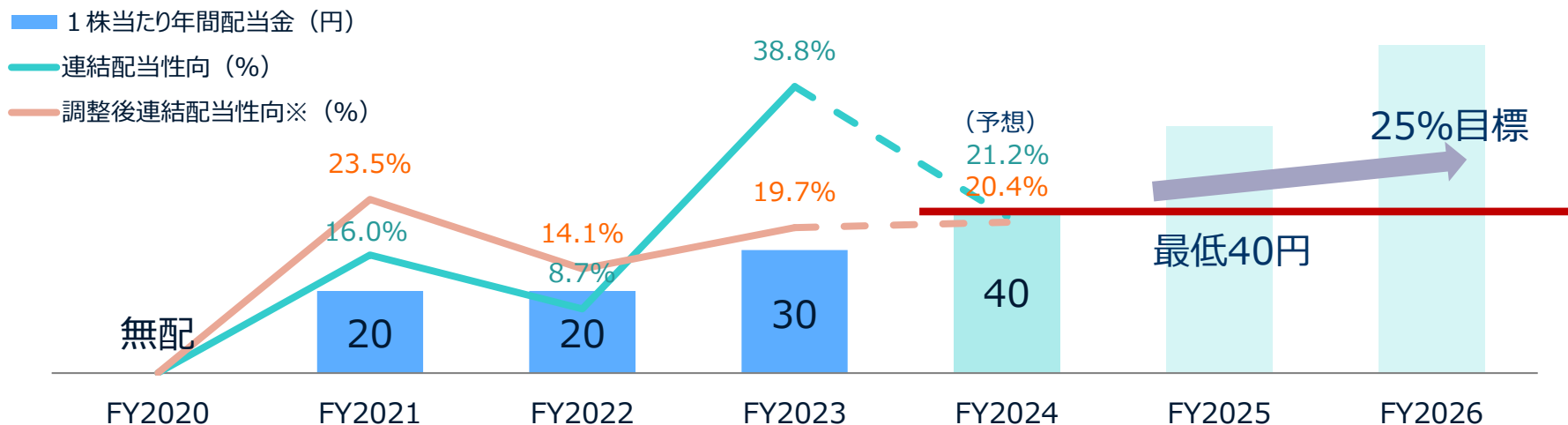
## 配当方針の明確化

### 【従来】

将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続して実施する。

### 【変更後】

将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、**年間40円を最低配当金とし、2026年度までに連結配当性向25%を目標とする**配当を実施する。



※調整後連結配当性向とは、損益の一時的特殊要因である韓国子会社の退職給付債務の数理計算上の差異およびそれにかかる税金費用相当額、非支配株主に帰属する当期純利益の影響を試算、控除したもの

- 将来予想に関連する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 予想と異なる結果になることがある点を認識されたうえでご利用ください。
- 本資料および当社IRに関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

<お問い合わせ先>

G M B 株式会社 経営企画部

Email : [ir@gmb.jp](mailto:ir@gmb.jp)

---